

2019
秀作

第52回「おかねの作文」コンクール

ライフデザインとお金

愛知県・愛知教育大学附属岡崎中学校 3年 佐藤 崇遥

少し前、我が国の財務大臣がある発言をした。

「95歳まで生きることを考えれば年金だけじゃ足りない。2,000万円は必要。」と発言したのだ¹⁾。

僕は、その記事を見て目を疑った。年金があれば、老後働かなくても、お金の困らぬにある程度の生活ができると思ってきたからだ。それに、祖父母は後期高齢者で、働いていないが、一切、経済的に困っていると聞いたことがないし、感じたことがなかった。

しかし、テレビで、年金だけでは生活できず、非正規雇用で働いている人の実態を紹介しているのを見た時、年金だけでは生活できない人がいる現実を知った。将来、大人になって稼いでも、2,000万円も貯められるかには自信がもてなかった。

内閣府の調査によると、平成28年の段階で、65歳から69歳の高齢者の、44パーセントが就業しているか働く意欲があるという結果がある²⁾。それに、近年は上昇傾向であることから、私たちが高齢者になるおよそ50年後は、さらに割合が高まっているのかもしれない。

僕は、65歳まで働いて、老後はゆっくりしたいと思っていたので、割合の高さが予想以上であることに驚いた。そして、65歳からゆっくり暮らすためには、それなりに収入を得られる職業に就かなければならないのだと、焦りを感じた。

数ヶ月前、学校でライフデザインと資産形成についての講義があり、ライフプランとお金との関係について勉強した。

そこでは、ライフプランから、生涯総収入と生涯総支出を計算し、生涯をとおして資産形成の重要性を感じることを目指した。

大学院を出て24歳で就職し、30歳で結婚して子供を2人育てる。共働きで65歳まで働き、ゆとりのある生活で90歳まで生きることを想定して計算した。

その結果、労働収入、退職金、年金を合わせた生涯総収入は約3億7,900万円。そして、教育費、住宅費、老後費用、生活費用などを合わせた生涯総支出は約3億9,500万円となった。

これから生きる上で関わってくるお金を、現実的な数値で計算する中で、ライフプランとお金との関係を知ることができた。また、約4億という数字は予想以上に大きかった。

しかし、2,000万円まではいかないが、生涯の中で約1,600万円もの赤字が生じていて、一体どうやって補うか、不安に思った。就職後の1年あたり約24万円の赤字である。

そこで将来、支出を減らすために、節約の精神で消費生活をしていこうと思った。また、収入を増やすための手段として、株式や公債への投資がある。しかし、非常に大きなリスクを伴うので、投資する時はよく考えるべきだと思った。不確実性を伴うが、相互利益につながる可能性を秘めた投資を成功させるためには、投資と経済についての学習が必要だと思った。

将来、豊かな人生を送り、経済的に困らないためにも、資産形成について学び、現実的なライフプランを立てることが大切だと感じた。

就く職業によっても収入は大きく異なる。将来の夢を^{かな}叶えることも大切だが、子供を養い、ゆとりのある生活を送るためには、安定した、一定以上の収入が必要となる。将来の夢を叶え、食べていくための適切な選択をする上で、勉強は欠かせない必修項目となる。

学校で習う教科だけでなく、社会的、経済的な自立を目指し、将来のために様々なことを学んでいきたい。

今、僕は両親の収入に支えられて生きている。でも、それはあと10年だけ。いつか、自分一人で稼いで食べていかなければならない時がくる。その時に向けて、もっと具体的なライフプランを計画し、お金の稼ぎ方やお金の使い方を考え、お金の大切さを身に沁^しみ感じていくことを目指して、お金と付き合っていきたい。

お金と人生は深く結びついている。人生を彩り、将来の夢を叶えるためにも、お金に対する知識をもっと深めていきたい。

(注)

- 1) みかづきナビメディア 「老後 2,000 万円足りない」発言の下らなさ

URL <https://www.mikazuki-navi.jp/blog/>「老後 2000 万円足りない」発言の下らなさ /

閲覧日 2019 年 7 月 22 日

- 2) 内閣府「平成 29 年版高齢社会白書（全体版）」第 1 章 第 2 節「4. 高齢者の就業」

URL <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/index.html>

閲覧日 2019 年 7 月 22 日

